

- Mon. Wea. Rev., 99, 665-672.
- Hubert, L.F. and L.F. Whitney, Jr., 1974: Compatibility of low cloud vectors and rawins for synoptic scale analysis, NOAA Technical Report NESS 70.
- Hubert, L.F. and A. Timchalk, 1972: Convective clouds as tracers of air motion, NOAA Technical Memorandum NESS 40.
- Leese, J.A., C.S. Novak and B.B. Clark, 1971: An automated technique for obtaining cloud motion from geosynchronous satellite data using cross correlaton, Jour. Appli. Met., 10, 118-132.
- Millar, J.A., 1973: Picture of the month, Dry air intrusion into a low-level moist tongue as viewed by ATS-3, Mon. Wea. Rev. 101, 594-596.
- Oliver, V.J. and J.F.W. Purdom, 1974: Mesoscale convective processes in the tropics as revealed by satellite imagery, Fifth conference on weather forecasting and analysis, Ameri. Meteor. Soc. 61-62.
- Purdom, J.F.W., 1974: Satellite imagery applied to the mesoscale surface analysis and forecast, Fifth conference on weather forecasting and analysis, Ameri. Meteor. Soc. 63-68.
- Smith, A.H., 1974: What are you looking at when you say this area is a suspect area for severe weather?, NOAA Technical Memorandum NESS 56.
- Shenk, W.E. and R.J. Curren, 1973: A multi-spectral method for estimating cirrus top heights, Jour. Appli. Met., 12, 1213-1216.

==== 海外だより ====

外国の気象観測所めぐり (4)

—タンジュイ河洪水観測所 (インドネシア)  
7°40' S, 108°30' E—

日本では外国人が来て名乗りをあげ研究目的をつけるのと大い気象資料を簡単に見せてもらえるが、東南アジアなどではそう簡単にはいかない。1972年12月末にインドネシアを訪れたわたしは、気象資料を入手するのにも一つ一つの資料について値段の交渉が必要であった。また国内を旅行するためには、スパイでないことを示す証明書を発行してもらわねばならなかった。この国では、公共事業省 (DPUT) という役所が日本の建設省や農林省のような仕事を総括的に行なう大変活気のあるところで、気象調査もここの協力が無くては出来ない。ここからの研修生の面倒を見ていたこともあり、わたしの調査日程はここで好意的に作成された。運転手つきのランドクルーザーと案内の役人がつけられ、日本の建設省派遣のエキスパートのK氏夫妻も同行して10日間の視察旅行に出発した。最初の見学対象はジャワ島の南斜面、ジャカルタの南東にある長さ 100km ぐらいのタンジュイ河流域である。ジャカルタから4時間で有名な避暑地のバンドンにつき1泊してこの盆地からさらに南東の段々畑

の美しい斜面を登ると1,000m ぐらいの分水嶺をこえてこの流域に入る。北西から南東に流れるこの河の北側はジャワ島背りょう山脈で、南側は海岸との間に低い山脈がある。年降水量 3,000~4,000mm で10月頃が最多雨である。ほとんど堤防らしいものは無く、年数回、下流は洪水が溢れ、河口付近は広大な湿地帯にアラリヤ蚊が群発し、おそろしいところである。馬小屋のようなホテルでは水浴中も便所でも蚊とり線香を手放せない。この国はオランダによって多くの雨量観測がなされ、今もこの流域に10ヶ所ぐらいの観測所と数ヶ所の水位観測所があり、河口近くのバギリというところに公共事業局の出先の洪水観測センターがある。われわれの到着は電報と文書で予告されており、雨量表も用意されていて、人のよい所員たちが歓迎してくれた。中には「真白き富士の……」などと歌い出す人もある。隣組やラジオ体操など日本軍の遺産が多いのにはおどろいた。公共事業省では1. かんがい 2. 治水 3. 電力という順番でこれらの河の改修に力を入れている。人口の多いこの国では故障の多い日記雨量計より雨量ますによる観測の方が精度が高い場合も多い。(中島暢太郎)